

山本 涼子議員



南阿蘇村の財産について

山本議員

近年、財政赤字を理由に温泉施設等の貴重な財産が売却された。選挙戦の中、財産売却を憂い多くの村民の声が寄せられました。

私の考える南阿蘇村の財産は、「豊かな自然・水源」「阿蘇五岳とその麓に広がる田園風景」「元気の源であるお米を作るに適した環境」です。その中で最も大切な財産といえば『豊富な水』。石油はなくても生きてはいけるが、水が無ければ10日で世界は終わるとも言われている。そして水を巡っては各地で多くの戦争が起きている。

生きる為に大切な水が、南阿蘇村では随所で豊富に湧き上がっている。また阿蘇山の恩恵で温泉も楽しむことも出来ている。そう考えると、南阿蘇村に暮らすこと自体が高額の宝くじに当たったようなものとも言える。世界が憧れる水源の多い日本はこれまで地域で水を管理し守って来ましたが、近年外国の水会社が参入し、熊本県でも6つの市が一部委託し更に、県は官民連携を推進している。(参考；ドキュメンタリー映画「最後の一滴まで」ヨーロッパの隠された水戦争)

余談ですが、熊本の水道水が100%地下水という恵まれた地域ということで、県は菊陽町に半導体工場のTSMCを誘致した。しかし、豊富な水は無限ではない。因みにTSMCの子会社JASMの地下水採取量は一日最大22,000m³にも上り、これは南阿蘇村民が使う10日の量になる。

このような流れもあり県では貴重な地下水を守るため、阿蘇地域の水田の涵養や草原再生に今後取り組むことを推進している。この取り組みが実を結び、何十年何百年もかけて育まれてきたミネラル豊富な水という財産が枯渇しないことを祈るばかりである。

私は毎日の様に愛犬と家の近くの展望台から南阿蘇の風景を眺めては、癒されそして活力を貰っ

ている。田植えの時期は田んぼに水が張られ、更に心底満たされる。こんな素敵な場所であるからこそ、これからも南阿蘇村に移住して来られる方が増えることは予想される。ただ、少し心配な面もある。近年、日本では全国的に土地や水源地が外国人に広範囲にわたり買われていると聞く。また、北海道のニセコがよく話題にのぼるが、今後南阿蘇村の近い将来ニセコの様にならないか強く危惧している。

そして、豊かな自然に恵まれた南阿蘇村の未来を担う子ども達もまた大きな財産である。この子ども達の為にもここに住む私たち大人が南阿蘇村の財産を自分達の手でしっかり管理し、守っていくことが大事だと考える。

そこで、これからの任期で太田村長は、財政回復の為に南阿蘇村の財産を売却する考えをお持ちか、あるいは売却せず貴重な財産を生かした取り組みをお考えであればお聞きする。

村民お一人お一人が最大の財産

村 長

人の持つ知識や経験、知恵やコミュニティ精神は、私達が村で生活する中では大変有益なよりどころになっている。地域の祭りや行事に代表される歴史や伝統文化をしっかり守り、次世代に伝えていくことが大切である。

それにはやはり人。村づくりは人づくりからが私の持論であり、子どもたちの教育環境の充実や後継者育成にも力注いでいく。

村有施設については、まだ多くの過剰施設や重複施設がある。今後実施していく行政改革の中で再度検討を行う。旧久木野庁舎が図書館に生まれ変わった様に、新たな価値を生む利活用も実現。売却の際は慎重に選定していく。